

湖国の感動 未来へつなぐ



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



少年男子

4年連続の決勝進出
2年連続の準優勝！

成年男子 2大会連続出場



Ibaraki Basketball Association

一般社団法人 茨城県バスケットボール協会



湖国の感動 未来へつなぐ



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



「わたSHIGA輝く国スポ2025」が、令和7年
10月3日(金)～7日(火)に、滋賀県大津市
を中心に開催され、本県少年男子チームが
4年連続の決勝進出、2年連続の準優勝
という快挙を成し遂げました。



Ibaraki Basketball Association

一般社団法人 茨城県バスケットボール協会



湖国の感動 未来へつなぐ



キャッフィー

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



チャッフィー

初戦の大阪府戦は、大会初戦の緊張感からか難しいゲームになりましたが、ディフェンスで踏ん張って57-48のロースコアで勝利。準々決勝の福井県戦は、第1、第3Qにオフェンスが爆発して83-66で快勝。茨城国体から5大会連続のベスト4進出を決めました。

準決勝は、強豪静岡県を倒して勝ち上がってきた小兵軍団佐賀県。小気味よい攻めと統率の取れた激しいディフェンスが特徴の好チームです。第1Q、第2Q、佐賀県チームの勢いに手こずりながらも高さの利を活かした形で37-29とリードを奪います。後半、ディフェンスの強度を上げ、オフェンスリバウンドにも粘り強く絡み続ける佐賀県に対し、その勢いを止めきれず追い上げられる場面もあった本県チームでしたが、第3Q、第4Qとじわじわとリードを広げることに成功。最終スコア80-67で4年連続の決勝進出を決めました。



Ibaraki Basketball Association

一般社団法人 茨城県バスケットボール協会

湖国の感動 未来へつなぐ



キャッフィー

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



チャッフィー

昨年と同カードになった決勝。宿敵福岡県との対戦です。開始早々、能力全開で点を取りに来る福岡県チーム。本県チームは、組織的守備、効果的な3P等で必死に食らいつき16-22の6点ビハインドで第1Q終了。第2Q、ターンオーバーが続き、21-30となったところでタイムアウトを取り、立て直しを図る本県チーム。福岡県の得点を止めるのは難しいものの、粘り強いオフェンスリバウンドや組織的な守備で食い下がり、38-42と差を詰めてハーフタイムを迎えます。第3Q、マッチアップを変えて本県チームのリズムを崩した福岡県が、ツボを押さえたディフェンスで本県チームのオフェンスを完全にシャットアウト。その間も福岡県は順調に得点を伸ばし、このクォーターだけで16点、トータルで20点のリードを許すこととなります。最終第4Q、落ち着いてゲームをコントロールする福岡県に対し本県チームは必死で食い下がりますが、点差を詰めるには至らず。最終スコア64-85でゲームセット。破れはしましたが、その闘いぶりは胸を張れる素晴らしいものでした。



Ibaraki Basketball Association

一般社団法人 茨城県バスケットボール協会

湖国の感動 未来へつなぐ



キャッフィー

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



チャッフィー



今年の茨城県少年男子チームも魂のこもった素晴らしいチームでした。「パスがディフェンスの手にひっかった」「ファブルした」など、ルーズボールになったりミスになったりしかねないケースでも、簡単にプレイをやめずに次のプレイにいち早く反応し、「ミスをミスにしない」という場面が随所に見られました。3Pや巧みなボールさばきが目立つチームでもありましたが、球際の強い、地味なところに凄みを感じさせるチームだったと言えます。

堂々の準優勝。自チームの活動やプライベートの時間を削って茨城県選手団として参加し、素晴らしい結果を残してくださった選手の皆さん、スタッフの方々、本当にお疲れ様でした。心からの感謝、そして敬意を表します。



Ibaraki Basketball Association

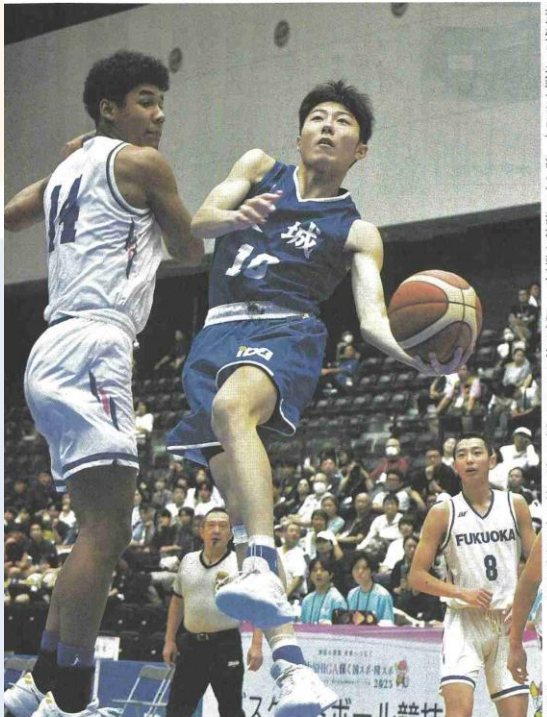
一般社団法人 茨城県バスケットボール協会



滋賀国スポ
天皇杯、本県37位
第9回国民スポーツ大会「わたしがHUGをく」国スポ025、第10日は7日、各地で行われ、バスケットボール少年男子の本県選抜は決勝福岡選抜に64-85で敗れ準優勝となった。重宝挙げ少年男子022、朝日ジュニアは、朝日ジュニアが100で2位入賞を果たした。同日、競技全て日程が終了し、滋賀が44年ぶりの男子総合優勝（天皇杯獲得を決めた）女子総合優勝（皇后杯獲得も手に入れた）。本県は天皇杯37位、皇后杯35位だった。

バスケットボール
滋賀県選抜（男子）は、福岡選抜に64-85で敗れ、準優勝となった。本県は、天皇杯37位、皇后杯35位だった。

本県選抜、雪辱ならず



バスケット少年男子
福岡に屈し準V

焦点
雪辱は果たせなかった。前回大会を同カードに挑んだバスケット少年男子は、本県選抜が福岡選抜に64-85で敗れ、準優勝の結果を受けた。昨大会と同様の結果を受け、選手たちは悔しさをあらわにした。序盤は互角に渡り合った。6分を過ぎると、第2クォーターは、夏から鍛え上げてきたフェンスが機能した。本縣選抜（土清仁大高1年）が鋭いドライブで、2ポイントや3ポイントで得点を重ね、4点差でリードを奪った。第3クォーターは相手の粘り。強いミッドレンジを、相手選手に主導権を握られ、食する自らのオルコト、大野は「良い勉強になった」。前半終了間際はゲームキャプテンの進むに連れて、強襲は低下し、20点を完全に主導権を失った。最終クォーターは、外角から激しく攻撃された。選手たちは、悔しさをあらわにした。選手たちは、悔しさをあらわにした。

バスケットボール少年男子決勝福岡ー茨城 第3クォーター



令和7年10月8日茨城新聞朝刊より



Ibaraki Basketball Association

一般社団法人 茨城県バスケットボール協会

